



The Prevalence of Social Engagement in the Disabled Elderly and Related Factors

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-07-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, みどり メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000101

論文内容要旨

しめい 氏名	きむら みどり 木村 みどり
学位論文題名	The Prevalence of Social Engagement in the Disabled Elderly and Related Factors (要介護高齢者における社会参加の実態と関連要因)
<p>【背景・目的】 高齢者の活発な社会参加は心身機能、生命予後に大きく関与し、また、主観的幸福感や生活満足度にも寄与することが報告されている。しかし、疾病や傷害を持った要介護高齢者における社会参加の実態についての知見は日本では見当たらない。そこで、本研究では要介護高齢者における社会参加の実態とその関連要因について明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】 福島県福島市2地区の65～84歳の1,225人を対象に郵送調査を実施し、回答不備、要介護度認定状況項目、および社会参加項目での欠損がなく、要介護認定ありの高齢者86人を分析対象者とした。調査項目は、基本属性（性、年齢構成、世帯構成、居住年数、教育年数、収入のある仕事の有無、暮らし向き状況）、要介護度認定状況、社会参加状況に関する項目、身体的側面（医療機関受診回数、手段的自立、外出頻度）、心理的側面（健康度自己評価、健康関連QOL、精神的自立性尺度）、社会的側面（ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート）とし、調査期間は、2011年2月9日～18日であった。</p> <p>【結果】 要介護高齢者における社会参加ありは23人（26.7%）であった。要介護度別では、軽度要介護高齢者17人（軽度要介護高齢者の32.7%）、中度要介護高齢者4人（中度要介護高齢者の20.0%）、重度要介護高齢者2人（重度要介護高齢者の14.3%）であった。社会参加の内容は、中度および重度要介護高齢者では、お祭り・盆踊りなどの地域行事への参加のみであった。社会参加に関連する要因を明らかにするために、社会参加あり・なしを従属変数とし、単変量解析の結果、有意傾向、および有意であった項目を独立変数、性、年齢を調整変数としたモデル1、要介護度認定状況を調整変数に加えたモデル2を設定して、ロジスティック回帰分析を行った。その結果、モデル1、モデル2ともに、健康度自己評価、精神的自立性が社会参加ありに有意に関連していた。</p> <p>【考察】 要介護高齢者における社会参加ありの割合は、要介護度が重度化するにつれて低くなったが、重度要介護高齢者であっても、社会参加を実施している者が存在することが、本研究から明らかになった。中度および重度要介護高齢者における社会参加の内容は地域行事への参加であり、受動的な性質を持つ社会参加が残った。その背景には同行してくれる人の存在があることが推察される。送迎や外出時のサポートも含めた支援体制が整うことにより、社会参加の可能性が高まると考えられる。また、要介護状態にあっても、自分の健康状態を良いと自覚する肯定的な評価や、人生の楽しみや自己決定を求めようとする精神的自立性の高さが、社会参加ありに関連したと考えられる。要介護高齢者における社会参加を促進させるには、健康度自己評価と精神的自立性を高めるような支援が有用であることが示唆された。</p>	

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。